

はちじょう い せきしゆつ ど ひん 八條遺跡出土品

平成 29 年 4 月 27 日 八潮市指定有形文化財 (考古資料)

●八潮市大字南後谷 763 番地 50 (資料館)

八潮市域の北東部に所在する八條遺跡で平成 24 年に市内初となる本格的な発掘調査が実施され、9 世紀中～後半ごろの住居跡などが確認されたことから、平安時代に人々が生活を営んでいたことがわかった。市域は古代において武蔵国埼玉郡に属し、中川を挟んだ東側は下総国と、国境に位置していた。また、遺跡の範囲には、起源が平安時代の「奥州古道」にさかのぼるともいわれる下妻道が通り、さらに河川沿いには多くの河岸場・渡し場が営まれるなど、交通の要所であった。また、この遺跡が所在する地名「八條」は古代条里制にちなむとも考えられている地域である。

調査では、下総国で生産されたロクロ成形の土師器が半数近くを占め、その他、武蔵国の南比企窯、末野窯、東金子窯、常陸国の新治窯、下総国の三和窯等、各地で生産された須恵器や土師器の坏や碗、皿、甕等が出土した。また、東海地方で

生産された灰釉陶器や、官人層と何らかの関係が示唆される丸軻や鉈尾、「π」もしくはそれに類似するものが墨書された土師器等、この集落の様相を示す資料も出土した。

指定文化財は、主に平安時代の 9 世紀中ごろから後半にかけて集落を形成した建物跡等、性格が明らかな遺構に伴って出土した資料のうちの 31 点である。河川を介して下総国を中心に様々な窯業産地から土師器・須恵器・陶器等の生活の器が供給されることや、地方官人と遺跡の関係性等、地域の古代社会の特徴を良く示している。



◎公開日：資料館開館日 9 時～ 17 時

◎その他の文化財：旧藤波家住宅 (15 時 45 分まで)
慶長年間の検地水帳 (一部常設展示)

◎交通案内

- ・草加駅東口からバス (八潮駅北口行、八潮団地行、または木曾根行)「手代橋」下車徒歩 5 分
- ・八潮駅北口からバス (柳之宮経由草加駅東口行)「後谷住宅前」下車徒歩 3 分

◎資料館休館日

月曜日 (祝日の場合は開館) 祝日の翌日 ほか



本図は電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成したものです。